

RCCP News Letter

第3号・Summer 2018

京都女子大学 地域連携研究センター

自然災害と地域社会の役割

地域連携研究センター長 竹安 栄子

大阪北部地震に続いて、西日本豪雨、台風12号の上陸、さらには記録的な猛暑と今夏、西日本は自然の脅威に翻弄されています。被害を受けられた各地の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

大阪北部地震では、京都女子大学が立地する京都市東山区にも避難指示が発令されました。幸い大きな被害は発生しませんでした。大学の敷地内には活断層が走っています。土砂災害警戒区域も複数か所含まれていて、今回、被害がなかったからと言って決して安心することはできません。

2018年3月に開催した第2回ラウンドテーブル（本学が連携関係を締結している学外機関にお集まりいただいて意見交換する場。本学を中核にしたネットワークづくりを目指しています。）では、「地域防災」を共通テーマに取り上げ、東山消防署の警防課消防係長湯淺健司氏に、古文書などの記録に残されている東山区の地震の歴史についてお話いただきました。「古都、京都は災害に強い」という漠然としたイメージがありますが、実際は過去に何度も地震に見舞われ、被害が発生した経験があることを史料に基づいて解説していただきました。

私たち人間の力は自然の脅威の前には限界があります。しかし事前に十全な対策を立てておくことによって災害の被害を少しでも減らすことは可能です。この「減災」に重要な役割を果たすのが「ご近所の力」です。先日新聞の連載コラムに、大阪北部地震発生直後、ご近所の方から「お風呂に水をためておくように！」と声をかけてもらったおかげで、その後の断水時にも自宅のトイレを使うことができて助かった、と著者が書いておられました（朝日新聞朝刊、2018年8月3日）。避難に際しての声掛けはもちろんのこと、「困ったことがあったら何でも言ってね」と気軽に声を掛け合える関係を日頃から地域の中に構築しておくことで、いざという時の住民行動に大きな差が生じます。

京都は、歴史の中で形成された近隣関係がしっかりと根付いている都市です。しかし、長年、住民同士の社会関係の基盤を形成してきた町内会が、近年の高齢化の進行で活動の遂行が困難になりつつあります。東山区ではすでに高齢化率が30%を超えています。一人暮らし高齢者世帯や高齢夫婦世帯の比率も高く、災害発生時には近隣の協力、すなわち「共助」が一層重要な役割を果たすといえます。

しかし地域の「共助」の担い手である自主防災会の実態は必ずしも把握されていません。そこで現代社会学部奥井先生が、地

域連携研究センターの「学まち推進型連携活動補助事業」の一環として、東山消防署の協力を得て昨年度末に「東山区自主防災会実態調査」を実施していただきました。東山区の「共助」の現状把握に重要なデータを提供してくれるものと期待されます。調査結果を行政や地域にフィードバックすると共に、地域の「共助」の力を高める活動に貢献していきたいと考えています。

「学まち連携大学促進事業」も3年目に入りました。昨年度は不開講であった演習科目「連携課題研究」が2クラス、試行的ではありますが開講されました。これで本事業の中核をなす「女性地域リーダー養成プログラム」が完成したことになります。また今年度から連合京都・京都信用金庫・京都中小企業家同友会東山支部のご協力で、「働く女性のための基礎講座」と題して「産学連携科目」に新しい科目が追加されました。本事業の最終年である2019年度からは、「副専攻領域」の中のプログラムの一つとして本格的にスタートします。

また「学まち連携大学促進事業」のもう一つの柱である、「学まち推進型連携活動補助事業」も順調に成長しつつあります。これは学内の先生方に地域連携ないしは産学官連携活動を広く呼びかけ、わずかの予算ですが連携活動を財政的にも支援しようとの考えで昨年度からスタートした事業です。今年度は、昨年より2件多い11件の応募がありました。応募していただいた先生方の所属学科も多様になり、徐々にではありますが、着実に連携活動が学内で広がっていることが実感されます。

地域連携研究センターでは、町内会や自治連合会の活動支援、あるいは中小企業や伝統産業の支援など、今後もきめ細やかな視点に立って、京都女子大学の特色を活かした市民密着型連携活動を中心に活動を展開していきたいと考えています。引き続き皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。



女性地域リーダー養成プログラム（連携活動科目） 「連携課題研究」がスタートしました

平成29年度開講の「連携活動入門」「地域連携講座」「産学連携講座」に加え、平成30年度前期に、「連携課題研究」（演習）がスタートしています。初回の演習を受講した学生からは、「ゼミ形式で行われる授業が興味深く、テーマについて深く探求できそうだ。」「講義だけでなく、フィールドワーク、プレゼンテーションやレポート作成といった経験が、今後の職業選択に役立ちそうだ。」「少人数で、講師や受講者同士が、じっくりとコミュニケーションでき、就活のスキルアップになりそうだ。」といった授業に期待する声が聞かれました。今後、通年・集中講義で、授業が行われます。

新しく開講された「連携課題研究」は右の2講義です。

●連携課題を発見し、情報技術を用いた問題解決策を考える

担当：図書館司書課程 講師 桂 まに子

デジタル時代に地域や企業が抱える連携課題について考え、研究テーマを決めて、情報技術（Wikipedia、Open Street Map など）を活用した問題解決を図る。

●女性起業家と考える、「創業しやすい京都」

担当：京都信用金庫（寄附講義）

京都で活躍する女性起業家との対話や、事業の見学・体験といった場を通して「京都で創業するうえでの課題」を発見し、「創業しやすい京都」とはどのようなものかを考察する。

「学まち推進型連携活動補助事業」 「祇園祭ミニチュア鉦」修復プロジェクト

京都の職人が当時の最高の技術を駆使して制作したミニチュア鉦の修復の過程を記録し、広報することは、京都に残る工芸技術、伝統を継承する意義ある活動です。また、平安時代から約1100年続くといわれる祇園祭の歴史を知る上でも、貴重な資料となることでしょう。

最後のページでも一覧でご紹介したとおり、「学まち推進型連携活動補助事業」では、このプロジェクト以外にも10のプロジェクト活動が始動しています。

「祇園祭ミニチュア鉦」修復プロジェクト

京都女子大学は、株式会社美也古商会在が所有する昭和6年作の祇園祭の小型鉦の修復工程を記録・保存する「祇園祭ミニチュア鉦プロジェクト」に取り組んでいます。生活造形学科の学生・大学院生6名が、大丸京都店の6階、1階、地下1階に、祇園祭に合わせて展示された7基の鉦の展示作業を見学しました。修復は2年間の予定で、来年の6月には全ての修復が完了した鉦が展示されます。

家政学部 生活造形学科 准教授 前崎 信也



長刀鉦を組み立てている様子取材する学生たち



船鉦（大丸地下1階に展示）

展示している鉦のクローズアップ



職人が人形の破損した箇所を修復している様子

祇園新橋景観づくり協議会との連携

京都市は、平成28年度9月に「京の地蔵盆」を京都をつなぐ無形文化遺産として選定しました。祇園北地区4町内（元吉町、橋本町、末吉町、林下町）では、60店舗、事業参画人数 約100名が、平成28年8月から行燈絵を復活されています。

今年度は、協議会役員からの依頼で、本学の学生が約20個の行燈の制作に携わるようになりました。

学生が描いた絵やメッセージの行燈が、風情ある街並みを灯します。



●行燈掲出期間：平成30年8月11日(土)～8月26日(日)

●掲出場所：祇園新橋、元吉町、橋本町、林下町、祇園東

行燈絵制作

祇園新橋景観づくり協議会との連携活動の一環として、生活デザイン研究所を窓口矢野ゼミの学生が中心となり、8月に向けた祇園北地区4町内の地蔵盆における行燈絵制作に取り組んでいます。制作に携わった学生の作品には、私たちが誇る日本、そして京都のよさを一人一人が考え、絵と言葉でそれを表現しています。ゼミ学生の作品を通じて、行燈の光とともに鑑賞する皆様の心へ温かさが届くことを願っています。

発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真

弥栄自治連合会との連携

平成28年度より東山弥栄学区で高齢者に向けた「居場所づくり」、「ふれあい・健康づくり」として学区民生委員からの依頼で、継続している弥栄すこやか学級の講座を、本年度前期は国際交流センターの姜先生が担当してくださいました。外国人観光客が急増している地域の状況を反映し、中国語への関心はとて高く、参加された皆さんは、熱心に取り組まれました。



弥栄すこやか学級の中国語講座からはじまる大学の地域貢献について

昨年度の劉小俊教授に引き続き、弥栄すこやか学級において「やさしい中国語講座」を担当することになりました。地域の元気な高齢者の方々や弥栄自治連合会の皆さんと一緒に活動することは、個人的にも大変楽しい経験です。この「やさしい中国語講座」は、簡単な中国語発音とあいさつ言葉の修得など、中国語で簡単なコミュニケーションが取れることを目指しています。外国語の練習は、大きな声を出すことで呼吸機能を強化したり、頭脳を刺激することが期待されます。また、たとえ挨拶だけでも中国語でできるようになれば、中国からの観光客に対する印象が変わり、異文化とのふれあいを楽しんでもらえるようになるかもしれません。

地域社会のニーズを理解して地域に貢献する人材を養成することや、大学が蓄積する知的資源と教育資源を地域住民に還元することを通して地域との絆を深めることは、大学の使命だと思います。周知のように、京都市は日本有数の観光地であり、毎年、外国人を含んで多くの観光客が来ています。京都府の統計データによると、2017年には、5362万人の観光客が京都市を訪れており、1兆1268億円の観光消費額が計上されています。2016年（観光者数5522万人、観光消費額1兆862億円）と比較して観光者数は少し減少しましたが、観光消費額は406億円の増加となります。また、外国人宿泊客数も352万7895人と、過去最高を記録しました（京都府ホームページ、『平成29

年観光入込客数及び観光消費額一覧』、『平成29年外国人宿泊客数内訳表』）。観光客がもたらした消費は、京都市の地域経済に重要な影響をもたらしていますが、その一方で交通の混雑や様々なマナー違反などの「観光公害」も発生しています。祇園が立地する東山区では人気の観光スポットが多く存在するので、この「観光公害」は深刻な状況にあり、地元住民のストレスの一因になっています。

このような状況を考えると、大学が地域社会に貢献する方策は色々と考えられると思います。例えば、地域の方々の観光に対する意識や行政・観光関連業者への要望を調査し実態を把握することもその一つでしょう。あるいは、大学の言語資源を活用した多言語による広報活動の支援も重要な活動です。すでに本学では、外国語による学生の観光ガイドや看板の外国語表記のチェックなどの活動が行われていますが、これを一層拡大していくことで、「観光公害」の軽減に貢献することが期待されます。また、地域住民と外国人観光客のトラブルには、文化や考え方の違いから生ずるものもありますので、互いに理解し合うことが大事です。今後、京都女子大学で学ぶ外国人留学生を組織し、地域住民との交流活動を行い、互いの理解と融合を促進するのに力を注ぎたいと考えています。そのために、弥栄すこやか学級での地域の皆さんとの交流は、私にとって貴重な経験となっています。

国際交流センター 助教 姜 紅祥

平成30年度「学まち推進型連携活動補助事業」がスタートしています。

京都市「学まち連携大学促進事業」を推進するにあたり、教職員と学生が主体的に取り組む京都市内での連携活動に対して費用面で補助する事業の募集を昨年度に引き続き実施しました。本年度は、昨年度のプロジェクトを継続する応募が8件、新たな応募が3件、合計11件の応募がありました。

各プロジェクトの活動内容については、来年3月発行予定の地域連携研究センター Annual Report 2018にて、ご報告する予定です。なお、昨年度の活動報告書はすでに発行されております。必要な方は、地域連携研究センターにお問い合わせください。

平成30年度 学まち連携プロジェクト(学まち推進型連携活動補助事業)一覧

事業名・申請者	連携先	イシュー別4領域のうち、該当する領域
京都刑務所「矯正展」における造形ワークショップ “ワクワク工作キャラバン” 矢野 真 [発達教育学部 児童学科 教授]	京都刑務所	②安心安全・まちづくり支援
「祇園祭ミニチュア鉾」修復プロジェクト 前崎 信也 [家政学部 生活造形学科 准教授]	(株)美也古商会 (株)岡墨光堂	③京都・東山の歴史と文化
京都の伝統染織産業と人の輪をつなぐネットワーク 青木 美保子 [家政学部 生活造形学科 准教授]	山元染工場 綴織技術保存会 奏絲綴苑 (株)マドレー 本学 生活デザイン研究所	④京都の産業支援
音楽による地域貢献プロジェクト 音楽ふれあい隊 田中 純 [発達教育学部 教育学科 教授]	NPO法人 音の風 東山区社会福祉協議会	①子育てと高齢者支援
東山区における自主防災活動と町内会運営の実態に関する実証的研究 奥井 亜紗子 [現代社会学部 現代社会学科 准教授]	東山消防署	②安心安全・まちづくり支援
「祇園新橋に生きる女性たち」聞き書きプロジェクト 森久 聡 [現代社会学部 現代社会学科 准教授]	祇園新橋住民及び商店経営者	③京都・東山の歴史と文化
増補改訂版「写真に見る京都・馬町空襲被害地図」 坂口 満宏 [文学部 史学科 教授]	馬町空襲を語り継ぐ会 東山区総合庁舎	③京都・東山の歴史と文化
福祉施設の高い技術と地域の特性を活かした商品共同開発 および情報発信 宮原 佑貴子 [京都女子大学 生活デザイン研究所]	社会福祉法人 白百合会	①子育てと高齢者支援 ②安心安全・まちづくり支援 ④京都の産業支援
KWU 小学生プログラミングコンテスト 丸野 由希 [現代社会学部 現代社会学科 講師]	京都市内の小学校	①子育てと高齢者支援 ④京都の産業支援
京女まち歩きオープンデータソン 桂 まに子 [図書館司書課程 講師]	京都市東山図書館 京都府立図書館 オープンデータ京都実践会 まちづくりカフェ@東山	③京都・東山の歴史と文化
京都女子大学親子支援ひろば「ぴっぱらんど」 瀬々倉 玉奈 [発達教育学部 児童学科 准教授]	市内保健センター 児童館	①子育てと高齢者支援 ②安心安全・まちづくり支援

イシュー別4領域 | ①子育てと高齢者支援 ②安心安全・まちづくり支援 ③京都・東山の歴史と文化 ④京都の産業支援

編集後記

今回の夏号では、祇園祭、地蔵盆といった京都の伝統文化と密接に関わる活動をご紹介できました。ひとつの地域での連携活動が拡がりを見せ、新たな活動へと展開していることを嬉しく思います。学生たちが地域活動に参加する中で、京都の伝統、文化を肌で感じ、触れることができる機会は、京都、東山にキャンパスがある本学ならではの貴重な体験にもなることでしょう。(M.O T.I)



編集・発行

京都女子大学地域連携研究センター
京都市東山区今熊野北日吉町 35
TEL.075-531-7080
Mail: r-suishin@kyoto-wu.ac.jp
URL: http://rccp.kyoto-wu.ac.jp